

「光輝（かがやき）」プログラム		小中接続期	5年生	(全 30 時間)
5年生で育成したい資質・能力				
育成したい 資質・能力	躍動する感性	①	人間味溢れる豊かな感覚	自分とは異なる考えや価値観に気付き、興味をもってかかわることができる。
		②	自ら学ぼうとする姿勢	何のために学ぶのかを考え、学習に意欲的に取り組むことができる。
	レジリエンス	③	粘り強く取り組む力	うまくいかないことに遭遇しても、何度も試行錯誤し、解決に向けて行動することができる。
		④	コラボレーションする力	他者との対話を通し、相手の気持ちを考えながら意見を聞き、相手を尊重しながら、状況の改善につながる意見を述べるることができる。
		⑤	複眼的に思考する力	事実や出来事に対して複数の思いや願いをもってとらえ、新たな見方や考え方を見いだすことができる。
	横断的な知識	⑥	知識と知識を関連づけながら深く追究する力	教科で学習した知識や技能を広く活用し、これまで学んだ見方や考え方を深めたり、新たな考えを導き出したりすることができる。
		⑦	論理的に問題を解決する力	学校生活や授業から解決すべき問題を見つけ、客観的な視点でものごとをとらえることで解決への道筋を明らかにし、問題解決に取り組むことができる。

単元名	「輝け！GoGo文化祭」
単元を通して めざす子ども像	文化祭の企画・開催を通して、見通しをもって準備をする「計画力（横断的な知識）」を高めている。よりよい文化祭を開催するために、自分の役割を認識して、チームのメンバーと協力して文化祭を行うことで「団結力（レジリエンス）」を高めている。昨年度の光輝で育んだ力や、図画工作科や理科、音楽など各教科の学びを生かした、作品作り、パフォーマンス発表を行うことで「応用力（躍動する感性・横断的な知識）」を高めている。

段階	I (1~4)		II (5~17)		III (18~24)		IV (25~30)	
学習課題	資質・能力系統表に書かれている目指すべき姿から自分たちに必要な資質・能力を考える。		文化祭の内容を考え、計画を立てる。		文化祭の実施に向けて、準備・計画・実践を行う。		文化祭を通して、自分たちの活動、資質・能力の育ちを振り返る。	
育成したい 資質・能力	人間味溢れる 豊かな感覚						同学年・全校で発表する 評価する・振り返る	
	自ら学ぼうとする姿勢	目指す姿を設定する 見極める・言い換える						
	粘り強く取り組む力							
	コラボレーション する力		できることを考える 提案する・議論する		準備・企画をする 協力する・調整する			
	複眼的に思考する力		できることを考える 議論する・再考する					
	知識と知識を関連づけながら 深く追究する力				作品を作る・発表の準備をする 応用する			
	論理的に問題を 解決する力			計画を立てる スケジュールを立てる・計画する				
関連する 活動	教科		算数科／理科		図画工作科・音楽科			
	見方や考え方		筋道立てて考える／多面的に考える		自己のイメージ			
	道徳	活動	教科書「森の絵」を基に、集団の一員として自分の役割を果たすことについて考える。				児童のふり返り「わたしの目標」を基に、みんなで協力し合うことの価値について考える。	
		内容項目	よりよい学校生活、集団生活の充実				よりよい学校生活、集団生活の充実	
	道徳	活動						
		内容項目						
	特活	はたらきかけ	去年の光輝での成果・課題を踏まえ、今年度のなりたい自分を資質・能力系統表をもとに考えさせる。【自己実現】	自分の役割を果たすべく、それぞれの立場から文化祭の開催に向けて意見を出し合い、実行員や各パート・チームのリーダーが中心となってよりよい文化祭になるように考えさせる。【社会参画】	自分のやりたい事や得意な事をいかせるチームに所属し、そのチーム内で役割を果たし、チームに貢献できるように促す。【人間関係形成】	文化祭を通してつけた力がどれだけ高めることができたのかを振り返り、次の光輝に向けて、どんな力を高めていきたいのか考えさせる。【自己実現】		
はたらきかけ								

評価方法	ポートフォリオ、観察	ポートフォリオ、観察	ポートフォリオ、観察	ポートフォリオ、発表の自己・他者・相互評価
------	------------	------------	------------	-----------------------

「光輝（かがやき）」実践記録			小中接続期	7年生	(全 30 時間)
単元名			「輝け！GoGo文化祭」		
段階	評価方法	資質能力	子どもの姿	教師の気づき	
				計画変更点・理由	有効であった手立て
I	観察	②	資質・能力系統表を自分たちなりに解釈し、言い換え、キーワード化した。そして、昨年度までの光輝の成果と課題を踏まえて、自分たちに必要な力は何なのかを考え、今年度の光輝でつけていきたい力としてまとめた。		つけたい力を教師が提示するのではなく、子どもたちと話し合い、子どもたちの実態や思いに寄り添って決めていったこと。光輝の活動に意欲的に取り組む姿勢の基盤となった。
II		④ ⑤	これまでに学習してきたことや今学習していることなど自分たちのやりたいことを関連付けたり、組み合わせながら、実現可能なことを考えていった。活動内容を考える際は、友達と協力して、アイデアを出し合っ、話し合うことができた。また決まった活動内容に合わせて、パート分け、チーム編成を行い、自分たちの希望に合わせて各チームに配属した。		子ども達主導で行い、協力し、お互いの意見を出し合いながら進めていくことができるように、実行委員を立て、各パート・チームにリーダーを立てた。
		⑦	限られた時間の中で、本番に向けてのスケジュールリングを全体で行った。昨年度の光輝実践での経験も生かしながら、中間発表をもって進捗状況を確認する時間をもちたいなどと、意見を述べる姿も見られた。		
III		④	所属したチームごとに、具体的な企画や準備を行った。本単元に使用可能な時間から逆算して予定を立てたり、企画書・必要物品リストを書いて、役割分担しながら計画を立てた。		計画を立てやすいように、本単元に使用可能な時間を提示したり、企画書・必要物品リストなどを書かせたりした。 学習を活用しやすいように、単元を入れかえるなどカリキュラムマネジメントを行ったり、単元内容をつよしやすいように関連付けながら授業を行った。
		⑥	これまでに学習してきたことや今学習していることなどを活用しながら、準備を行った。たとえば、裁縫チームは家庭科の授業で習った裁縫の学習をいかして作品を制作したり、合奏チームは音楽で学んだ技術やピタゴラチームは、段ボール、ワイヤー、糸のこなどの題材を扱った図工の授業での学びをいかして作品づくりを行ったりした。		
IV		①	各チームでの振り返りを行い、成果と課題を出し合った。また、当日の発表動画を見返し、完成した各チームの作品を鑑賞して、全体での振り返りを行った。ほかのチームや全体への気づきやアドバイスを共有した。 他学年にもGoogleクラスルームを使って共有し、発表や作品を観てもらいアンケートを書いてもらった。また、ホームページに掲載して、保護者や一般の人からのアンケートも募った。それらの他者評価からも自分たちの活動を振り返ることができた。		自分たちのみの振り返りだけではなく、他者評価も取り入れることで、複合的な視点から振り返り、価値に気づけるようにした。